

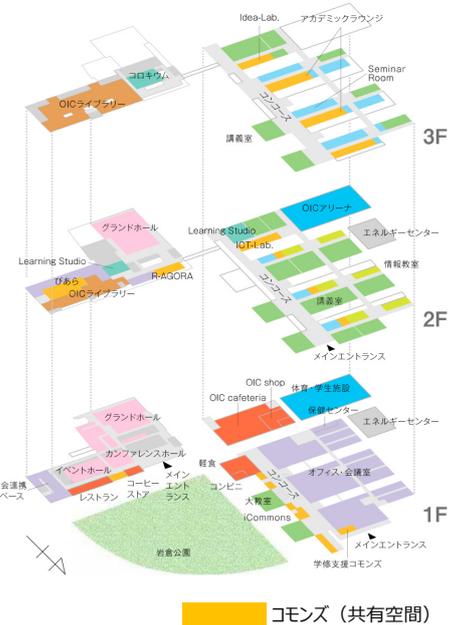
コンコースが結びつける

多様な学修環境が整備されたキャンパス

大阪いばらきキャンパス



学舎ゾーン（A棟、C棟）1階から3階を南北に走る最大幅約18m、長さ約200mの大廊下“コンコース”各棟をつなぐ主導線でもある



点在するcommonsをつなぐ“コンコース”

【ポイント】

コンコースが結びつける多様な学修環境

多様な学修環境の整備

- コンコースを中心に約1500席の学修環境が点在。
- 大人数での授業やイベントに対応したスペース、学生に開放もされるセミナールーム、高性能のPCが配置され映像・音声編集ができるブース、学部ごとの拠点となるcommons等、多様な学修環境を整備。

学生が自然と集まるような仕掛けを分散配置

- コンコースには机、椅子、PC、複合機、掲示板、情報モータ、ホワイトボード等の学生が自然と集まる仕掛けを分散配置。
- 設計には、学外や階段等、様々なところで学修していた学生の行動や動線を観察した結果が活かされている。
- 教育環境、使い手（学生、教職員、市民）の変化に合わせて更新が可能となるよう、空間を作りこみすぎないようにデザインしている。



階段の踊り場はちょうど腰かけられる高さでコンコースに張り出している



120人収容のラーニングシアター

整備による効果

多様な活動の展開

- 昼食時に Room（コンコースに隣接したガラス張りの小部屋）でランチミーティング、夕方は図書館で静かに勉強する等、多様な環境の中から目的に合わせて利用している。
- 学会発表、映画上映会、ガーデニング講座、各種イベント等、キャンパス全体を使って把握しきれないほど多様な活動が展開されており、市民協働、産学連携のプロジェクトやワークショップ等、様々な新しい学びも生まれている。

学生の学びの拠点に

- 学生が主体的に関わり設計した学部ごとのcommons（アカデミックラウンジ）は、授業と授業の間を過ごす等、学生の学びの拠点として活用されている。



Room（1～8）は利用者を限定せず多目的に利用できる



アイデアを形にする経営学部をブロックで表現したcommons



「大木の木陰」をコンセプトとした政策科学部のcommons

整備の背景・目的

- 「学園ビジョン 2020」の基本計画として、「教育、研究、学生生活を支えるキャンパスづくり」を目標の一つに掲げ、既存キャンパス（衣笠、びわこさつ）だけでは狭隘化により困難であった理想の学修環境を大阪いばらきキャンパスにて計画した。
- その立地から、産業や行政との更なる連携、地域や社会に開かれた活動の可能性を広げることが一つのポイントとなった。
- 検討は教員や学生の意見を取り入れながら進められ、計画時のコアメンバーが開学後も運営、地域連携を担当することでスムーズな運営を実現している。



塀や門はなく、茨木市の歴史的な東西、南北の街路の軸に合わせたゾーニングがされている

更なる展開

効果測定

- 利用率だけでなく、実施されている活動や、目的、効果の把握が課題であり、学生へのヒアリング等を基に学修観を探ることを検討している。

地域との連携のあり方

- 市民活動、学生の活動のいずれも活発であり、連携の在り方は継続的に検討を進めていく。